

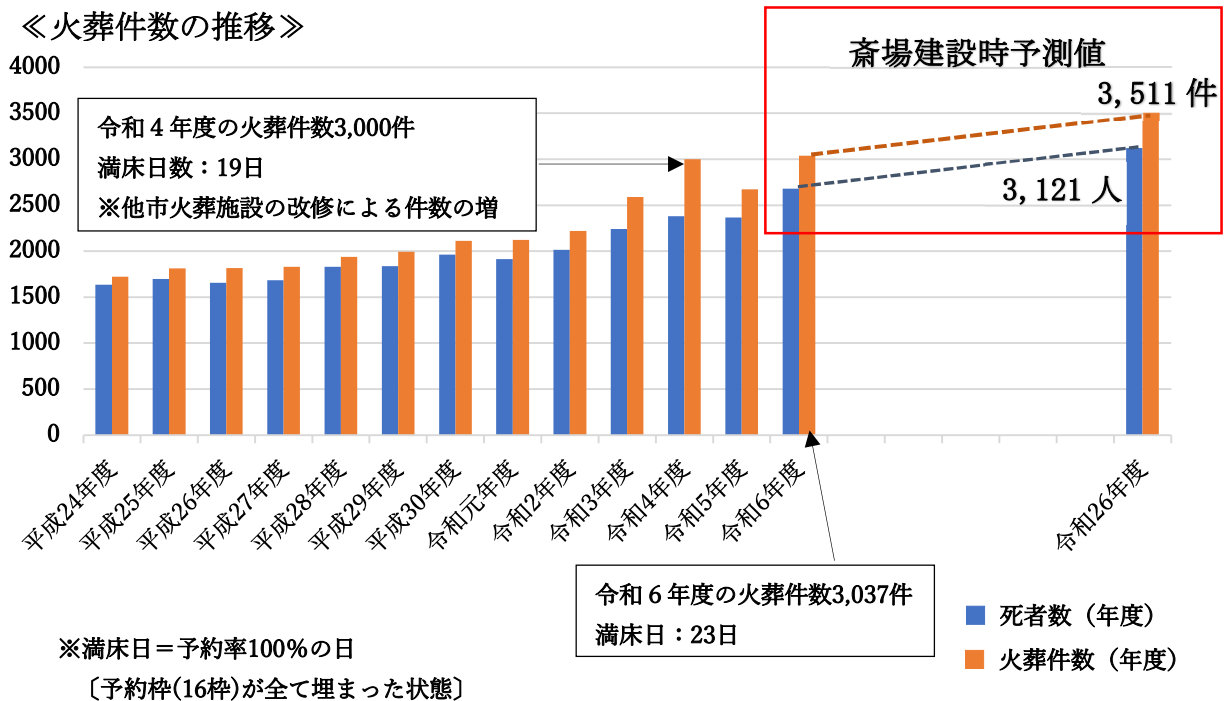
厚木市斎場火葬炉の増炉について

1 増炉について

平成 24 年 4 月に供用開始した厚木市斎場におきましては、現行 6 炉の火葬炉で 1 日最大 16 体の受入れを行っておりますが、将来の火葬需要の増加を推計し、2 炉の増設スペースを設けております。

死亡者が増える寒冷期（冬季）は、火葬が集中することから、予約枠が全て埋まる状況が常態化し、火葬待ち日数が増え市民生活に多大な影響を与えています。

今後におきましても、これまでの 6 炉による運用では対応が困難となることが想定されることから、安定的な火葬の受入れを行うため、2 炉増設することで受入枠を拡大し市民サービスの向上を図るものです。



《令和 6 年度月別火葬実績》

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
市内件数	204	181	168	204	213	224	206	181	239	278	220	258	2,576
市外件数	33	30	18	14	43	39	20	30	41	78	65	50	461
満床日数				1					4	17	1		23
計	237	211	186	218	256	263	226	211	280	356	285	308	3,037

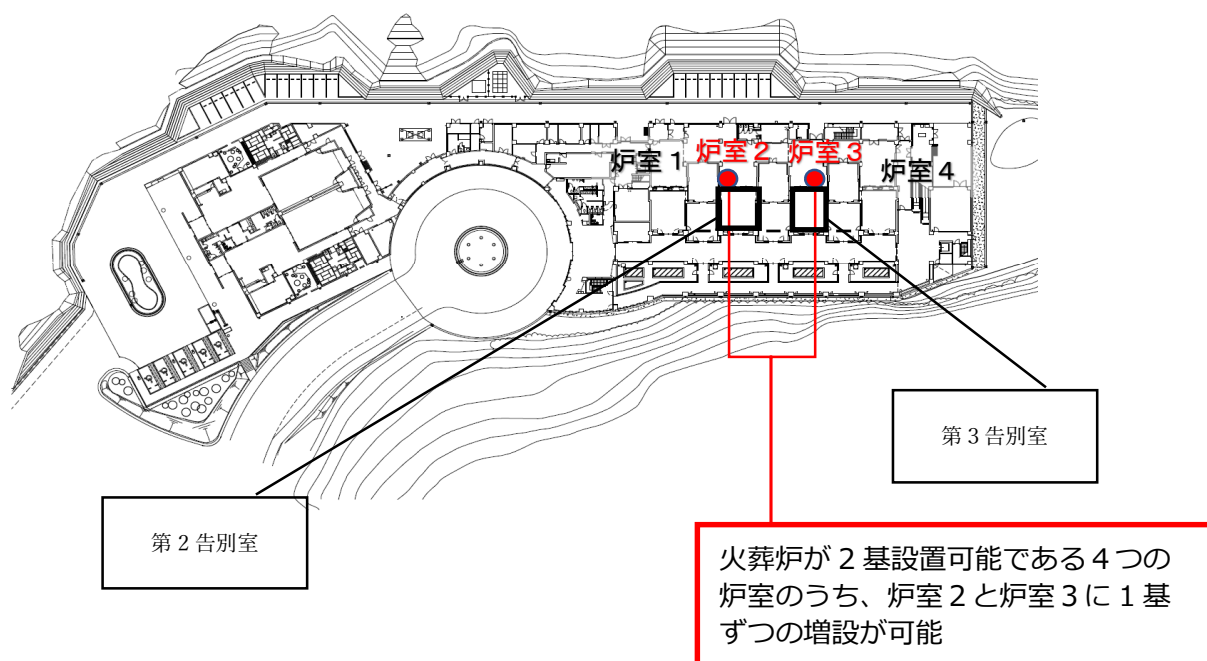
2 概算事業費

項目	概算費用（千円）
直接整備費 炉設備、排ガス処理設備ほか	218,000
共通仮設費、管理費ほか	42,000
計	260,000

3 2炉を同時に増設する理由

- (1) 2炉を同時に増設することは、1炉単独とするよりも諸経費が安価（約4千万円縮減）であり、斎場運営支援システム（火葬炉に付随・連動）を同時に改修することで全体的な諸経費のコストを抑えることができます。
- (2) 8炉となることで、メンテナンス等により一部の火葬炉が使用できなくなった際にも、冗長性を確保できます。
- (3) 施設構造として、火葬炉2炉に対して1室の告別室が備えられているため、8炉（偶数）での運用が効率的であり、増炉の効果を最大限発揮できます。

4 設置場所



5 効果

2 炉増炉することで、年間火葬可能件数は 1,200 件増え約 6,000 件となります。

火葬が集中する 1 月においても、現行の 368 枠に 92 枠増え、460 件（火葬可能件数 20 件×1 月の稼働日数 23 日＝460 件）の火葬ができることから、過去最多火葬件数となった令和 6 年 1 月の火葬件数 356 件（市内 278 件、市外 78 件）を考慮しても、市民の皆様の火葬需要に対応できるようになります。

6 スケジュール

令和 7 年 10 月 契約制度等小委員会

令和 7 年 12 月 補正予算計上

令和 8 年 1 月 契約

令和 8 年 2 月 整備着手

令和 8 年 12 月 完了

令和 9 年 1 月 稼働開始